

書 簡

梅雨の候連日鬱陶に堪えませんが皆々様丈夫ですか。私はたゞ僅か脚気の兆候がある許りで至つて壮健ですから御安心願ひます。

学年試験は愈々来る廿四日で始まり三十日で仕舞ひますが、七月一日から九月の十日までは休ミであります。

一ツこゝに折り入りて御願ひ申す事が御座います。

御承知の通り今年から大学の制度が變つて語学試験なるものが設けられ、之を及第しなければ卒業する事出来ぬ様になりました。そして此試験は英独仏三外国語の中から二つをえらんで受けるのですが、試験の問題が非常に難解な為、本年の如きは受験生九十名の中たつた二人及第した丈けです。それで高等学校に居る間によく語学を勉強しておらぬと大学に入つてから非常な損を招ぐ訳になりますので、私は全く爾來勉強の方法をかへて語学だけに精をだ

さうと決心しましたが、残念な事には五高の語学教師はいづれも學問がないので、従来諸高等学校の中語学の成績が最も下等で、去年も大学から五高出身の文科生は語学の素養が足りないと言ふ注意を蒙つた相です。

かくの如き始末でどうも五高の語学は残念ながら極めて幼稚なのであります。此の一年間の経験で私は五高に於て一年の間に得た語学の力は私が去年たゞ三ヶ月の間に正則英語学校で得たものより少ない位です。それで私はこう思ふたのです。休暇になつたらすぐ東京に行つて正則に入學し、七、八、九、十、十一、十二、の半年、即ち六月をこゝで英語を學び、側ら独乙語学校に通つて、五高の方は一学期間休學を願ひ全半年をば英独の二外国語を學修したなら確かに高等学校の一年間に得る所より大なる語学の力を養いうると思ひます。それで私は半ヶ年は東京に英独の語学を學修しやうと思ふのですが、父上は御許し下されませぬでせうか。

五高の方は一学期間休学しても差支へがないのです。此方が私にとりて後々の為に大なる利益と考へますから、深く御願申上げます。何卒至急「許す」と一言仰せられて私を喜ばせて下さい。

周明

父上様

* 明治三十八年六月の書簡。この休学が父に許されたかどうかかわからないが、恐らく許されなかったものと思われる。

二

肅啓 兼て御話申上候やう今十六日午後六時八代大将御夫婦の非常なる御芳情に浴し大将邸にて結婚の式を畢り広瀬兼子を妻と致し候間謹て御知らせ申上度如是御座候 頓首

大正十四年二月十六日

周明

御母上様

三

肅啓 久しく薰風に浴せざるも、一念未だ曾て老大人の

上に在らずと云ふことなし、恒に君国の為に道体の安和一層ならんことを万禱して止まざるなり。

客月上旬生社用を帯びて満洲に赴き帝都を離るゝこと四旬。此間実に三党首の妥協あり、更に甚しきは憲本の聯盟あり、震災手形法案の下院通過あり、而して最も道断なるは島津女官長の^{*}官中を去れるあり。爾来満目の光景唯だ生をして悲傷せしむ。生の満洲に在るや一支那新聞の帝国の政情を罵倒して骨に徹するものあり、文を結びて曰く、昔は孟子五十歩にして百歩を笑ふ者を晒へり、今の日本が民国政府の腐敗を嘔々するは豈七十歩にして百歩を笑ふものに非ずやと。侮を支那にすら招ぐこと遂に茲に至れるか。而も顧みれば離合集散唯だ利これ則るところ、日本の党争と隣邦の牽直戦と何ぞ扱ばん。吾国は古へより大義名分を以て立てり。いづくんぞ知らん今は則ち大利名分の国となり了せんとは。震災手形法案の如きは雷に政党自家のために墓穴を掘るに止まらず、実に君国の為に墓穴を掘らんとするものなり。民信せずば政行はれず。財界の動揺固より憂ふ可しと雖、之を救ふに別途なきに非ず。仮に一時の恐慌を招徠するも尚且信を民に失ふより優れり。今や国民は政商と官憲と互に結托して交々利を射るものとして震手法案を悪む。かくの如きものにして議會を通過するに於ては国民は断じて議會と政府とを併せ信ぜざるなり。この禍根

は暮年ならずして必ず顕然たるに至らん。若し夫れ島津治子女史の退官に至りては生秋毫も其の経緯を知ることなし。生の知るところは女史が希有の女丈夫なること、而して女史其人に辞意なかりしことと是れのみ。生は女史の如き純忠無双の人を容るゝ能はざる宮中の現状を揣摩して憂愁胸中に満たざるを得ざるなり。今春生招かれて参謀本部及教育総監部に至り、陛下の股肱のために天皇の本義、建国の精神、君国の理想に就て所信を披瀝すること両度共に約四時間、就中参謀本部に於ては李王殿下の清聴を汚したりしが、深甚なる共鳴者を皇軍の間に得て、欣然として満洲に向へり。帰来女史のことあるに遭ひ、落心極まるところなし。本立ちて未成る。根幹若し確然たらずば生等必死の微忱また何の能くするところぞ。一心転た悽然たり。

いま生は長野県伊那に在り。此地もと社会主義の旺盛を以て知らる。生の来れるは長野県の懇請によつて生の赤誠を伊那青年の前に披瀝せんがためなり。而も之を思ひ彼を思へば、殆ど生をして筆を折り口を緘せしめんとす。老大人希くは生が仲々の情を憐察せられんことを。四月京に帰らん日は、親しく道体を拝して高教を仰ぐべし。傾葵の至情其日を待つべからず、即ち蕪簡を呈して思慕のこゝろを叙ぶ。

昭和二年三月念三

周明鞠躬

牧野伸顕先生大人侍者

* 若槻民政、田中政友、床次政友本党各党首の妥協は同年一月二十日のこと。

* 女官長島津治子は牧野と同郷の薩派と見られる。のち大日本聯合婦人会理事長の時、不敬邪教問題で検挙さる。

四

肅啓 満洲旅行のため送金相遅れ申候。一昨日無事帰京仕候。十七日には山形県に参り可申候。これは十八日山形市、十九日米沢市に於て催ふさるゝ県庁主催の大典記念講演会に講演のために御座候。小生十一月にはまた満洲に参り可申、此度は二ヶ月以上三ヶ月位滞在可仕候。今度奉天に参りて張学良氏と色と談合のことありそれに目鼻をつけるための渡満にて、これは小生以外其人なき故会社の方より出張する次第に御座候。匆々頓首

〔昭和三年〕十月十四日

周明

御母上様

〔東京日暮里渡辺町筑波台〕

五

肅啓 小生十五日東京を発し、宮崎、熊本、福岡、京都を回訪して、昨日帰京仕候。旅行のみいたし居るに拘らず、いよいよ壮健に御座候へば御安堵被下度候。同封にて百円差上候間御受取被下度候。気が向き候時、御上京被下度候。今度の家は旧けれど広くて気持よく候。勿々頓首

〔昭和四年〕十月二十八日

周明

御母上様

〔東京市外上大崎二百廿一〕

六

拝啓 御無音申上げ居候処、御起居如何被在候や。実は昨夜母上大病の夢を見、非常に不快なる心地にて目覚め申候。夢は逆夢と申候故屹度御元氣の事とは存候へ共、氣にかゝり候まゝ御伺申上候。私は大元氣故御安堵被下度候。今朝、ちとせ、謹子、よしみ三人打揃ひて遊びに來り申候。まづは勿々かしこ

〔昭和三年?〕十一月六日

周明

御母上様

七

肅啓 此度は武運拙くして囹圄の身となり、母上には非常の御心配をかけ、何とも相済みませぬ。但し家門を汚すやうな事をしたのでありませんから其点は御安心下さい。私の下獄当時、警察又は刑務所で私が非常に酷虐な目に遭つてゐるやうな流言が飛んだそうですが、それは根も葉もない取沙汰で、刑務所の取扱も親切、検事の取調も極めて鄭重、周明は決して面目を辱しめられて居りませんから、これも御安心下さい。

私は心中疚しいところありませんから、刑務所に居ても気分は常に朗かで、からだも丈夫、此頃の酷暑にも大元氣で暮らして居ります。それですから私自身の健康その他については、どうぞ御心配下さらぬやうくれぐれも願ひ上げます。

人間のする経験で全く損なものは一つもありません。今度の刑務所生活も私にとりて実に難有い鍛練で、私の人間に磨きを掛けられました。母上様の御安泰を祈上げます。

頓首

昭和七年七月廿三日午後

周明

御母上様

八

肅啓 母上にはその後お変わりありませんか。私は此頃の酷暑にも拘らず、大元気で毎日読書し、思索し、日本のために祈りつゝ日を送つて居りますからどうぞ御安心下さい。私は今度の入獄で自分の心もからだも非常に弾力に富んで居ることを知つて喜んで居ます。年齢よりは十位の若さです。

繰返し申し上げますが、私の事は決して御心配下さらぬようお願い致します。どんなことになるかは全く判り兼ねますが、自分でよく／＼して心を悩ましたりからだをいためたりすることは絶対にありませんから、気を永くのんびりと御持ち下さるやう願ひ致します。頓首

〔昭和七年〕八月四日午後

周

御母上様

光勇さん*から差入を頂いたから宜しく御礼中上げて下さい。

* 本間家の一族の本間光勇。その夫人は、大川の母多代女の末の妹乙女。

九

肅啓 母上には其後御変わり御座いませぬか。私事は此夏の非常の暑さをも無事に凌ぎ、現に極めて壮健です。かうなつては身体が何より大事ですから健康には十分気を付けます。刑務所は未決の間は外で想像するやうな苦しいものではありません。刑務所は未決の間は外で想像するやうな苦しいものではありません。苦しいのは精神的苦痛で、それが肉体にも影響するのですが、私のやうに諦めが早くて一心清朗で居る者は滅多に病気になる心配などありませんからどうぞ此点だけは御安心下さい。

御老体の母上に御心配をかけることは実に相済みませんが、そのうちに屹度此の心配をつぐなふだけの事を致しますから、どうぞ御からだを大切に其時の来るのを御待ち願ひ致します。

〔昭和七年〕八月廿七日

周 明

御母上様

一〇

肅啓 獄中の日月飛ぶが如く疾くも十二月になりました。私の健康はその後益々順調ですから御安心下さい。私は中学時代にはあの寒い荘内で綿入も着ずに通したことがある

ほどでありましたし、大学時代も足袋をはかずに冬を過ごして居ましたが、ひどい神経痛をやつてから極端な寒がりになり殆ど病的ともいふべきほどであつたので、獄中火の気のないところで此冬を過ごすのは容易なことではなからうと大いに鍛練して居たのですが、其効が見えたのかそれとも此年の冬は温かいのか、十二月になつても左程寒さも感ぜず、夜具も蒲団を一枚かけただけでポカ／＼温いので、これならば大丈夫と自信がつかしました。決して病氣にはなりませんから御心配下さらぬやう願ひます。

入歯も先月末に出来ました。二週間慣れたら此方もよからうと思ひます。とにかくまた少しづつ、肥え初めました。匆々

〔昭和七年〕十二月初三

周

御母上様

一一

肅啓 その後母上様には愈々御健勝のよし芽出度存じます。私も元氣よく暮らして居りますから御安堵願ひます。何の彼のと申して居るうちに冬もすでに半分以上過ぎました。去年の秋から始めた毎朝の冷水摩擦がきいたと見えまして此冬は風邪の気味だにもありません。不相変毎日読書

が仕事で、全く飛ぶやうに月日が経つて行きます。獄中の日月は非常に長いものだらうと思つて居ましたが、好きな本を読み耽つて居るせいか一日がまことに短かく、日曜が来たと思ふ間もなく土曜になるといふ始末です。

入歯も漸くなれました。どうしても自分の歯のやうには参らず、余程用心せぬと胃腸をそこなひますが、一生懸命注意して居りますから大丈夫です。此頃は余程肥えました。頓首

〔昭和八年〕一月廿四日

一一

拝啓 その後御機嫌如何被在候や御伺申上候。私事元氣にて読書に没頭致居候間どうぞ御安堵被下度候。此頃節分の日に小さき袋に豆と飴とを入れたるを賞ひしが、此処は世間と反対に鬼は内福は外なりと思ひ可笑しさに堪え兼ねて独り噴笑仕候。毎日十一時に中食にて十二時より三十分間戸外運動に御坐候処、初めは十分間も走り続けると苦しく相成候ひしが此頃は三十分駈足を続けても些かも苦しからず軽く汗ばみて甚だ快く御座候（これは駈足をさせられるに非ず、三十分間各自随意に運動するものに御坐候）。これによりて見候も身体は弱り居り申さざる故どうぞ御喜

び被下度候。匆々不尽

〔昭和八年〕二月七日

御母上様侍者

周 明

一三

肅啓 今日陸軍記念日の三月十日に御坐候。一天曇りて妙に底冷え仕候へど二月頃の酷寒当時に比ぶれば物の数ならず。余寒去らずとは申せ春日すでに窓前に有之候。母上様には御機嫌如何に被在候や。私は不相変元氣に候。のみならず読書に身が入りしたため殆ど獄中に在るを忘れ居る有様に候へば御安堵被下度候。此頃も検事より心境の変化なきかと訊ねられ候ひしが、何の変化もなく悠々閑々たる氣持に御坐候。とにかく予審終結すれば保釈出所したしと存じ居候が、予審調は一度も無之状態故茲暫くは現状の儘に御坐候。不取敢近状のみ申上候。匆々頓首

〔昭和八年〕三月十日

周 明

御母上様

一四

肅啓 その後御無沙汰申上候。実は今頃は娑婆に出で居

らるゝ事と思ひ候ひしが、保釈請求は却下と相成候故一寸出所の目当ても無之次第と相成り、亦復獄中より一筆啓上仕ることゝ相成申候。保釈却下、残念は残念に候へ共今更くよく申しても無益に御坐候へば一層覚悟を堅確にし獄中生活を今後の仕事に役立たしむるよう努力すべく候へば、どうぞ御安心被下度候。私を心配下さる郷里の方々へも此旨宜しく御伝へ被下度、先づは右まで、匆々如是御坐候。頓首

〔昭和八年〕五月十五日

周

御母上様

一五

拝啓 御壯健のよし何より結構に存じます。私は先頃ちよつと下痢しましたが、もう大丈夫になりましたから御安心下さい。先度高橋君とも久振りで面会しました。

事件の大略新聞に発表され、いろいろ取沙汰が矢蓋しいことゝ存じます。世間の評判など善悪ともすべて間もなく消えるものでありますから、暫く(の)間うるさくとも御辛抱願ひます。私のことはどうぞ御心配なく。

〔昭和八年〕五月廿一日

周

御母上様

一六

覆啓 お手紙ありがたう。母上初め皆々元氣のよし私にとりてこれより嬉しい消息はない。秋子龍太郎ともに学校は一番のよし是亦祝着至極だ。今度の事があつてから御身と学而とは子供を立派に育て上げる大役の上に私の分まで母上に孝行を尽して貰はねばならぬことになり、実に気の毒であるが仕方がない。何分よろしく頼むぞ。

私は自分ながら驚くほど丈夫だ。六月末に急に暑くなつたことがあつて、其時少し食慾が減退したやうだつたから早速用心したところ、何のこともなく恢復、心身共に些かの衰弱も感ぜず不相変読書三昧に消光して居るから安心しなさい。匆々

〔昭和八年〕八月初八

周明

鏐君左右

* 弟学而の夫人。秋子、龍太郎はその長女と長男。ともに周明が命名した。

一七

拝啓 御無音申上候処御健安の事と奉欣賀候。私事獄一年有半に垂んとするに拘らず、殆ど心身の疲労を覚え、吾乍ら自分の頑丈なるに驚き居候。これ一つには私の性分が氣樂にて物事に屈託せざるにもよるべく、又一つには全未知既知の人々の至情によること、感謝致居候。公判も極めて順調に進行、今日にて証人調べを終り月末には検事の論告有之筈に候。神垣秀六と申す裁判長甚だ私の氣に入り実に快心に御坐候。皆々誰彼へ宜しく御伝へ被下度候。兼子は国許の広瀬伯父急死帰郷の由に候。匆々頓首

〔昭和八年〕十一月念一

周花押

御母上様

一八

肅啓 東京も二三日来寒氣頓に加はり候へば、莊内の寒威さこそと被存候処、母上様には御健安に被在候や伺上候。扱昨日検事の論告有之新聞にて御承知の事に候はんが、私への求刑は懲役十五年に御坐候。意外に苛酷なるに驚き候が、判決は遙かに輕減せらるべしと存候。輕重いづれにせよ、私は泰然として自ら処し決して心身を傷ふなどの事は

無之、現に昨夜も常に交らず安眠仕候次第故此点だけは御安心下され、周明は如何なる境遇にも莞爾として屈託せざることを御慰めとなし被下度候。朝暮祈るところは母上様初め学而等一同の元氣よく暮らさん事に御坐候。頓首

〔昭和八年〕十二月初一

周 明

御母上様

一九

拝啓 検事の論告求刑を聴いて君が失望落胆して居りはせぬかと思つて此手紙を上げる。あんな無法な求刑は決して通るものでないから心配するな。私は単なる従犯として正犯の最も軽き者以下の判決を受けるために大審院まで戦ひつゞけ、私に対する要求の如何に不当不法なるかを国民に知らしめねばならぬ。而して最後の判決が万々一不法に苛酷であるとすれば、それは必ず維新日本実現の機運を促進するものと信じて疑はないから是亦本懐だ。右の次第で私は一心旧に依て晏如、何の屈託もないから余り心配せぬやうに下さい。以上

〔昭和八年〕十二月初八

周 明

周三君視北*

* 周明の末弟。当時、満洲大連市霧島町に居た。

二〇

拝啓 先度のお手紙ありがたう。今度の事で君にも一方ならぬ苦勞をかけるが是も君国の為と思つて辛抱してくれ。私は屢々書いてやつた通り不法に苛酷な求刑があつたからとて唯だ意外に思つたゞけで少しも失望落胆などせず御一新以前ならいざ知らず今日左様な不当な事は天人ともに許さぬことを信じて居るから極めて元氣に日々消光して居る。義齒が完成して以来胃腸もよくなつたし夜は十分に熟睡するし心身ともに些かも衰へない。君も安心してくれるがよいし、母上にも安心させてくれ。やがて生れる子供の名は男ならば純三郎、女ならば光枝。お鏝にもくれぐれも宜しく伝えてくれ。そして二人で母上を大事にしてくれ。繰返して言ふが、私の事は心配に及ばない。私には艱難不屈の魂があり、此魂によつて常に氣持を朗かに、身体を健かに保つことが出来るから。勿々不展

〔昭和八年〕十二月十八日朝

周 明

学而君左右*

* この手紙は、学而が三男純三郎誕生を前に、その命名を

願ったのに対する返書。学而の三男一女はすべて周明が命名したという。

二一

拝覆 手紙難有う。周三久々にて帰省母上御安堵の由珍重至極だ。私も健康は申分ない。胃腸もすつかり丈夫になつたし風邪も引かない。食事は旨いし夜は存分に熟睡する。此点決して心配に及ばない。重滋君の長逝は驚いた。重治郎氏が嘸ぞ悲嘆したことだらう。扱裁判も廿日で結審米月初に判決がある筈。何度も申上げた通り相当の責任は欣んで負ふが、政治的意味を含む不当の酷刑に対しては最後まで戦ふことに決めて居る。此の戦ひも御奉公だ。母上初め皆によろしく。

〔昭和九年〕正月念三朝

周明

学而君

* 重治(次)郎は元西荒瀬村長伊藤軍次郎。重滋はその長男。

二二

肅啓 昨日は春に珍らしき寒風にて終日飛雪紛々天黯く

地白く候ひしが、今日は青空一碧、春陽麗朗に御坐候。世事人事如是と御承知被下度候。国許の様子は学而よりの手紙、片岡、雪竹の話によりて母上様も御壮健、同志は愈々熱誠の由承知大に安堵仕候。私儀も不相変元気に消光罷仕候へば、是亦御休神被下度候。読書思索に春日の長きを覚え、殊に此頃は仏蘭西語の勉強に没頭中にて、中学時代のマトン先生のこと、高樹町千駄谷時代のリシャル君夫婦のことなど想ひ起し居候。匆々頓首

〔昭和九年〕三月廿日

周明

母上様座右

* 片岡、雪竹は、周明の門下生で東亜経済調査局の片岡義介、雪竹榮のこと。

** 周明が中学生時代フランス語を教わった鶴岡天主教会の神父。

*** ボール・リシャルのこと。

二三

覆啓 三十日貴翰難有拝見。母上様初め御一同無異消光、わけても秋子以下少さき先生ども皆々すくくと育ち行き候よし、此上なく嬉しく存候。但仰せの通り氣候不順にて

今年の不作は免れ間敷農民の困苦一層なるべきは不堪心痛候。私も其後不相交健安に過ごし居候。公判は七日より初まり十月十二日まで毎週月水金に開かれ申候。裁判の模様は新聞にて報道せらるゝ事と被存候。読書の方は引続き世界史と仏蘭西文学に没頭し獄中の無聊を忘れ居候。匆々不

〔昭和九年〕九月初三

周 明

学而君左右

二四

肅啓 御無音申上候処、母上様には御健安一層の趣祝着此事に御坐候。扱今月七日より復た公判開かれ候が、大略の様子は新聞紙上に報道せられ居ること、被存候。去十九日に検事の論告あり第一審同様の求刑有之候ひしが、左もあるべしと存じ居しことなれば驚きも不致候。此序を以て私の控訴の趣旨を母上様まで申上置度候。五・一五事件の主犯は古賀中尉以下の軍人にて既に叛乱罪として処刑せられ候。私は短銃金員を彼等に与へたるものなれば、言ふまでもなく叛乱を幫助せるものにて本来叛乱罪として処分せらるべきものに御坐候。若し軍人ならぬ故それが出来ぬとすれば、普通刑法にて叛乱罪に該当する内乱罪又は騒擾罪

を以て律せられるべきものなることは明白にして疑問の余地なき処に御坐候。然るに奇怪なることには従犯たる私が主犯犯罪とは法律上性質を異にする殺人罪を以て律せられ居候。従犯が主犯と異なる罪を犯すといふ如きは考ふべからざる事に御坐候。それ故第一審にて殺人罪を私に適用せるは甚だ不当なりと信じ控訴に及びたるものに候。此度の論告も第一審のそれと同様肝心の擬律の点に於て殺人罪を適用致居候故勿論承服仕兼候。主犯と同質の罪を以て律せられざる限り、控訴と同一の理由により、刑の軽重如何に拘らず上告可仕候へば、どうぞ左様御承知置被下度候。頓首

〔昭和九年〕九月廿一日

周 明

二五

拝啓 日月蹉跎として流水の如く今年も十一月と相成申候。先度学而よりの手紙にて母上様初め諸方御一同健安のよし承候祝着至極に奉存候。私も大切のからだに候へば、念に念を入れて大切に致居候間どうぞ御安堵被下度候。先月より通俗二十一史とて支那の軍談ものを集めたる叢書を讀み居候が、そのうち呉越軍談漢楚軍談三国志は小学時代に讀みたるものにて、就中三国志は殆ど寝食を忘れんとせ

る愛読書に御坐候。年少時代に心を躍らせたる書物も後に之を読みば素然たるもの多く候が、此等の支那軍談類は只今読み返しても興味深甚に御坐候。多年支那人と交り、その国民性を知りたる上にて之を読み候ことなれば、膝を叩いて合点するところも多く御坐候。世界史の勉強も一応終了仕候。世界史の近代の部はケムブリッヂ大学編輯の近世史十二巻約一万頁を先週読了仕候。この勉強にて是迄氣付かざりし数々の事を知り申候。右の如く不相交読書と思索によりて最も有益に獄中の日月を消し居候へば御安心被下度候。頓首

〔昭和九年〕十一月初二

周 明

御母上様

二六

拝啓 昨九日第二審の判決言渡し有之禁錮七年の宣告を受け申候。陸海軍側との釣合より申せば刑期は尚ほ過長と被存候へ共懲役刑が禁錮刑と改まりたること、即ち殺人罪によらず騒擾罪として取扱はれたることは会心に御坐候。これにて第一審第二審の検事論告は根底より覆へされたることなれば、検事より直ちに上告せらるべく大審院の判決までには更に半年前後の時日可有之候。屢々願出でたる保

釈も今度は許可せらるゝ様子に拝見仕候へば、多分久しからずして母上様へも拝眉相叶ふことゝ被存候。頓首

〔昭和九年〕十一月十日朝

周明花押

御母上様左右

二七

肅啓 御無音申上居候処御健安一層の趣奉欣賀候。扱本日大審院判決にて叛乱罪幫助禁錮五年と決定仕候。家事整理並に齒の治療に暫く執行延期を求め然る後下獄可仕候。未決通算四百日、第一審判決より保釈出所するまで約十ヶ月、これを五年より差引けば三年余と相成り候故長くとも一年半前後にて間違なく出所仕るべく候。乍併恐らく其前に單り小生のみならず関係者全部が青天白日となる機運屹度到来可仕候間、決して御心配被下まじく候。小生の健康も此頃は中分無之獄中生活にはすでに二年の経験を積み居候間、是亦御安心被下度奉願上候。不取敢御知らせまで。如是御座候。不一

〔昭和十年〕十月廿四日

周 明

御母上様

拜啓 私事先月十六日市ヶ谷に入所、廿六日当豊多摩刑務所に移り申候。覚悟の上の入獄に御坐候へば格別の屈託も無之日々元氣にて消光罷在候。当刑務所の監房は安普請のアパートなどよりは遙に清楚にて中々心地よく御坐候。三度々々の食事も案外上等にていつも旨く食べ居申候。入所前送別会せめてこわしたる胃腸も入獄以來規則正しき飲食にて次第に丈夫に相成り、此頃は食慾も近來になく盛んに御坐候。とにかく修道院に入りたるつもりにて只管心身の鍛錬に努め、屹度健安一層にて出所可仕候間、どうぞ御安堵被下度奉願上候。此度の入所は天が私に重任を下し給ふために一段の修行を課し給へるものと堅く信じ居り候。母上様も左様信じ被下候事と奉存候。出所後の私の仕事を楽しみに元氣にて御暮し下され候やうくれ々祈上候。今度は発信も面会も一箇月二度と制限せられ居候故度々の消息も仕兼候へど、兼子より都度々々音信可申上候。皆々へも宜しく御伝へ被下度まづは右のみ申上候。勿々頓首

昭和十一年七月六日

周明

御母上様侍者

肅啓 健安一層に被在候由欣賀此事に奉存候。周三一家酒山に引越し賑々しきこと、奉存候が小生は周三が甘粕の尋常ならざる好意を空しくせぬことが出来るかどうか心配に御坐候。次に小生の獄中生活は其後不相変順調にて日々読書に他念無之健康も申分無御坐候。今年は随分暑氣烈しく、夜は蚤と蚊に攻め立てられ候も、些かも健康を損はず、戯れにへなぶりなど詠み乍ら元氣にて新秋を迎ふる次第に御坐候へば、どうぞ御安堵被下度候。へなぶり二三御笑覽に呈し申候。

かくばかり暑きものとは知らざりし

五十たび夏を経にし身なれど

日覚れば蚊の音かしまし蚤かゆし

ひとやの夜はにぎはしきかな

蚤も蚊も心して吸へわが血潮

すめらみくににさげし血潮ぞ

蚤も蚊も神の使ぞこの吾を

きたへ玉はん神のつかひぞ

なれもまためしうどなみにひもじきか

蚊帳の外よりかうべを刺すとは

汗臭き柿色ごろもまとへども

大和ごころはいよいよかぐはし

尚ほ多々有之候も今回は是にて摺筆可仕候。頓首再拜

〔昭和十一年〕九月五日

周明

御母上様

三〇

肅啓 今日正月三日に御坐候。母上様初め皆々芽出度御越年の事と奉欣賀候。小生も軀に見苦しき獄衣を纏ひて罔圀の裡に跼蹐致居候へど、精神は清浄潔白にて、一心暢びやかに正月を迎へ申候間御喜び被下度候。唇蘇こそ汲まね、歳晩には年越そば、三ヶ日は毎朝餅を頂き、まづく新年を祝ひ納め申候。扱獄中寒暑共に凌ぎ難く、猛夏の苦熱は釜中に煮らるゝ如く、嚴冬の昨今は恰かも冷蔵庫内に坐するの感ありて、双耳夙くも凍傷を生じ、冷剣時に骨に徹し候へども、かばかりの困苦に堪えざる健康にては、向後国事を負担するに堪えざるべしと観念、荐りに気魄を鼓舞して寒威と戦ひ居候ため、幸に風邪一つ引き申さず、三度の食事に舌鼓をうち、夜々の眠りも安らかにて、ひたすら学問に出精致居候へば、是亦御喜び被下度候。学問の方は欧羅巴世界制覇の跡を丹念に辿り居候が、予定を立て、の勉強に候へば、獄裡尚ほ書齋裡に異ならず、日々読書に

逐はれ居る有様は、閑中忙とも申すべき歟。右の次第にて、胸に公事に関する大憂を抱けども、一身に対する懊惱なく、朝暮祈る所は国運の隆興と母上様初め先輩知友の息災安泰のみに御坐候へば、小生については何事も御心配下さるまじく候。一顧すれば下獄以来既に半年を越え申候。何彼と申候うちに、日輪疾く転じてやがて出獄の時と相成り申すべく、何卒其日を楽しみに御老体偏に御大切に奉願上候。

頓首再拜

昭和十二年一月三日

周明花押

御母上様坐右

三一

一筆啓上仕候。塩辛かりし正月の豚雑煮の味、尚未だ舌頭を去らざる心地致候処、いつしか四月も半ばを過ぎ、下獄以来実に十箇月を経申候。獄裡日月の歩み悠長にして最も人を愁殺すと聞及び候ひしに、小生は却て其の疾急なるに驚き申候。獄中の光陰矢の如くあるは結構と思はれ候へど、此の光陰もわが一生のうちに御坐候へば、同じ速度にてわが寿命も飛び去り居る次第に御坐候。卑簡御手許に届き候頃は春光荘内の天地にも普かるべしと被存候が、東京は只今が一年中最上の氣候に御坐候へば獄中の生活も甚だ

凌ぎよく相成申候。世間は匆々惶々として多忙の様子に御坐候へど獄裡は閑々寂々太古の如く、読書三昧に知識を練つゝ打坐調息に心田を耕し、善啖善眠、健安一層に御坐候間どうぞ御安堵被下度奉願上候。母上様にも御健安にて小生の出獄を御待ち被下度、まづは近況御知らせ申上度、匆勿如是御坐候。頓首再拜

〔昭和十二年〕四月十六日

周明花押

御母上様坐右

皆々へも宜しく御伝へ被下度願上候。光勇氏より手紙頂戴、是亦御礼申上被下度候。

三三二

一筆啓上仕候。久しく御無音申上居候処、母上様には御健安一層の事と欣賀仕候。小子事も下獄以来既に一年を経申候が、終始一貫して極めて健康にて一回も診察を受けず医薬を服せず、唯だ粗食のため五百日前後体重を減じたるだけに御坐候へば、どうぞ御喜び被下度願上候。此夏は未だ凌ぎ難き暑さを感じず、勉強には最も好適にて日々一心不乱に読み且つ書き居申候。いづれも拝眉も遠からぬ事に御坐候へば、先づは匆々如是御坐候。皆々様にも宜しく御伝へ被下度奉願上候。頓首

〔昭和十二年〕七月初一

周明花押

御母上様

只今六月念六附学而手紙落掌。中里翁^{*}辞職離酒のよし。斯翁の如き市長は容易に得られまじく候。

* 郡制時代飽海郡長を長く勤め、のち酒田町長となり、酒田市制施行にともない初代市長として四年間その職に在った中里重吉。周明の遠縁でもあった。

三三三

拝啓 東京口と暑く相成申候。扱二個月以来心を碎き居り候処漸く実現の運びとなり、宇垣は外相に、板垣君は陸相と定まり申候。板垣君は三十日か三十一日着任可仕、そのため何やかやにて忙がしく帰郷も六つかしく相成候。七月以内に出かけたしと思ひ居候。まづは右まで。匆々頓首

〔昭和十三年〕五月念七夕

周明

御母上様

三四

肅啓 英米との戦争遂に始まり、東京は興奮中に御座候。母上様には御機嫌如何被在候や。小生は元氣至極に御座候間、御安堵被下度候。

同封為替のうち三百円は米年三ヶ月分、百円は母上様、

百円は学而への歳暮に御座候。不一

〔昭和十六年〕十二月十一日

周明

御母上様

三五

肅啓 決戦切迫東京も漸く真剣気分に相成申候。予て申上候通り厚木の奥に旧き豪農の家を求め、本月下旬には其方に移転することに相定め候。百坪余りの建物に御座候が、土間板間多く、豊ある部屋は玄関を入れても五間に御座候。外に下男部屋有之候。まことに旧式の建築にて押入は一つも無之候へど、土蔵一つ有之候。厚木は小田急沿線にて新宿より一時間十分を要し候が、調査局は同線玉川学園内に疎開すること、相成申候へバ、其処までは厚木より二十五分に御座候。八月に入れば東京の空襲頻繁と相成り可申候へバ、本月中には移転可仕候。内外多難に御座候へど、日

本が小生を必要とする間は冥加疑ひなく候へバ、どうぞ御安堵被下度願上候。学而より手伝に上京せんとの手紙有之候。多分其れには及ばずと被存候へど、必要の場合は電報にて頼み可申候。匆と不一

〔昭和十九年?〕七月七日

周明

御母上様

侍者

〔東京都品川区上大崎四ノ二二二〕

三六

肅啓 二十四日夜の空襲にて上大崎の研究所焼失仕候。

拙宅は大いに役立ち居候。研究所には焼夷弾雨下したる上、水道断水のため防火の手当もなく僅と数十分間に奇麗さつぱりと相成申候。尤も是くあるべきは予て覚悟の上に候へバ、既に郊外萩野に広大なる一屋を借り、荷物も大部分運び置きたる次第なれば格別狼狽も不仕候へど、研究所内に先頃移転し来れる東亜会も全焼せる事とて、何やかやと跡始末有之、京阪行も帰郷も暫く見合せ申候。建物は焼けたれど、寮生初め一人も微傷だに負はず、拙宅も火ノ子をかぶりたれど、寮生が屋根に上りて勇敢に防護せしたため、延焼を免れ申候。研究所前の高橋子爵邸は跡形もなく相成り

申候。いろいろ片付き候後に一寸帰郷仕度、まずはお知らせのみ。匆と如是御座候。不一

〔昭和二十年〕五月二十八日

周明

御母上様

〔神奈川県愛甲郡中津〕

三七

肅啓 国家の大変言ふに忍び不申候。山形県空襲の放送にて心配仕候が酒田に被害有之候や。中津飛行場は激烈なるもの二度有之候ひしが、拙宅は家根瓦こわれ障子曲りたる程度にて至つて軽微の被害に御座候。此前手紙差上候ころより日々多忙を極め、深夜東京より迎への自動車来るなどの騒ぎに候ひしが、事茲に至りては謹慎の外無御座候。今に及んで妄動するは国運を一層悲境に導く可しと存じ、向後の動向深省中に御座候。不取敢右のみ申上候。匆と頓首

〔昭和二十年〕八月二十一日

周明

御母上様

三八

肅覆 玉簡拝見仕候。国家の大変言ふに忍びず無念此事に御座候。唯だ陛下の御無念を拝察し奉れば吾等の無念の如きは物の数にも候はずとあきらめ、民族復興の大策に思ひを凝らし居候。敗けて亡ぶ民族ならば勝つても亡ぶ民族に候へば、今度の敗戦によつて決して日本の前途を悲観せざるも、国難重疊は言ふまでも無御座候。興亜運動に終始し来れる小生の如き、殆ど一生を棒にふりたる次第に御座候が、蹶つて考ふれば日支鮮の根本的結合は是より却つて容易となるべしとも思はれ候。現に東京の朝鮮聯盟の指導者等は小生の意見を求め、独立達成の援助を促し来り候。米軍日本に駐屯する限り一切の真正の運動は至難に御座候へども、日本の特質を堅持しつゝ、米の能率、ソの組織を摂取し、彼に追付き追越す覚悟を以て精進する国民的英気の全国的結合が最も肝要と被存候。匆と不一

〔昭和二十年〕九月念六

大川周明

原田君*

玉案下

* 原田幸吉。酒田在住のもと行地社同人。

三九

肅啓* 向寒の叩御安泰に被在候や。当地は此所荒天打続き、水害風害のため作物にも影響尠ならず、心配仕居候。但私の健康だけは申分無御座候間御安堵被下度候。また満鉄の方も研究所の方も東亜会の方も悉く昨日を以て辞職なり解散なりを遂げ、法政大学の指導部長たる以外一切の仕事より一ト先づ解放せられ申候。万事新規巻直しに御座候。交通緩和せられ候ハ、一度郷里に参りゆる／＼拝顔仕度存じ居候も不取敢近況御知らせまで。匆々如是御座候

頓首

〔昭和二十年〕十月十日夜

周明

* 母宛。

四〇

肅啓 九月十二日附にて卑簡差上候処、今日まで御返事無御座候故、或は開封の上没収せられしやも知れずと考へ、再び筆執り申候。扱私儀長らく帝大精神科病院に在り、次で此の松沢病院に移され、新聞に狂へる大川博士など、写真まで出で申候へど、母上には私の性格並に頭脳が決して

狂人などになる筈なしと御確信のこと、奉存候。事実私は全く健全にて早晚退院可仕候へバ、此点は御安堵被下度奉願上候。ロックフェラー病院・帝大病院・松沢病院と狂人にもあらぬ者が気狂扱ひされて引廻され、誠に面白き体験を得申候。尤もロックフェラー病院の方は実は狂人扱ひに非ず、賓客扱ひにて毎日マツカーサー夫人及び令嬢の歓待を受け申候が、帝大病院にては兼子が医師の言を盲信して私を気狂と思ひ込みたるため実に迷惑仕候。帝大の療法にて実に異常の高熱を発し候が、これは予め私のために強心並營養摂取の手当をせざりしための非常なる失策にて、私に此事を指摘されてより、毎夜甚だしきは三回も麻酔剤を注射し、私をして一切を忘却せしめるため、医員・看護婦こそぞりて馬鹿な注射を続け申候。唯だ発熱最高度に達せる時、明治天皇及び英国王エドワード七世の姿、明かに私の面前に現れ、『かねあき』頑張れと大声疾呼せられ、『さあ生れ交れ』と鼓舞され、そのために昏に異常の高熱に堪えたるのみならず、身長も一寸五分のび、身体柔軟なること青年の如く、顔も若やぎて兼子も松やも驚くほどに相成申候。其後麻酔剤注射にて睡眠中も常に明治天皇及エドワード七世を中心とする実に興味ある夢を見つゞけ、是非之を記録し置きたしと存じ候ひしも、大学側の差金か兼子の心づかひか、病院内に筆も紙もなき故、夢の記憶術として私

が屢々実行し来れる方法により目覚むれば直ちに発声して幾度となく之を繰返し且夢中のことを實際の如く行動して脳裡に刻み込むやうに致し候故、只今も明確に記憶仕居候。此事は無人の時に試みたるつもりなれど、兼子や看護婦が之を見聞すれば氣違ひと思ふのも無理なしなど此の手紙を書き乍らも微笑を禁ぜず候。此の夢の中に母上も常に現はれ、石原板垣の諸友も現はれ、夢乍ら私の心事最も鮮明に現れ、恰も私の精神を明鏡に映すが如く、実に面白く感ぜられ申候。退院後母上を上ノ山温泉に案内し、亀屋の女主人をも聴手に加へゆるく御話申上度候。但だ此処に至急電報にて御返事願上度きことは、私が左頬下部に人力と衝突して負傷せるは明治何年なりしか、また明治四十年六月に大川家より藤塚の役場に戸籍上重要なる届出でありしや否やといふ事に御座候。『○ネン』アリ』又はナシ』と簡単にて宜しく候間、御返電被下度候。大学病院にては兼子堅く医師の言を信じて私を狂人視し、如何とも手の施しやう無御座候ひしが、此処にては副院長村松氏、医長石川貞一氏（石川貞吉博士令息）皆な帝大の意図を疑ひ、小生の狂人たらざるのみか健全中の健全者なるを知り、看護人一同も同様にて親切此上なく、兼子も初めて迷夢より醒め中候へば、月末頃には退院し得ること存じ居候。

新聞雑誌に私が法廷にて東条の頭を打ちたるを狂態など

と米国に媚を売り居候へど、米人側は大喜びにて、退出後東条に似たる米人を伴ひ来り私に頭をうたせて写真を撮り、米新聞スターズ・エンド・ストライプスにのせて拍手仕居候。日本の大臣・大将皆な刑を恐れて醜態見るにたえざる時、かかる芝居じみたる裁判何ぞ恐るゝに足らんといふ意気を示せるだけにて、米人も之を知りて私を重んじ申候。名前を呼ぶ時も、皆なアメリカ訛りにて松井をマツアイ、和知をウエーチなど呼ばれて苦笑し乍ら返答するも、私だけはオカワなど呼ぶ故、大声にてオカワは小さい川、私はオウカワ即ち大きい川、今後オカワなど呼ぶと返事しませんぞと怒鳴り候故、其後皆オウカワと呼び申候。殊にロックフェラー病院在宿中米人の最も重要なる人々即ちロックフェラー族・マッケンジー一族と相識り、彼等の私に対する傾倒は高橋喜蔵さん以上候へば、裁判なども御心配被下まじく候。私を取調べる主任検事H・B・ヘルム君なども私に多大の尊敬を払い居ることは喜蔵君も承知の筈に御座候。殊にマッカーサー夫人は私が今後設立すべき研究所のために莫大の寄附を約束し居る次第に御座候。母上が最もよく御承知の通り、私は幼年時代より今日までポッチャ／＼と他人に可愛がられ、監獄は豊多摩にても看守等が私を必ず第一番に入浴せしむるほどの好意、巢鴨にても所長ハーディ大佐が私にだけ笑顔を見せ、米兵も私

だけを例外に尊敬し、ロックフェラーにても思ひがけなき
 崇拜者を多数の米人の間に得、此の病院にても亦同様にて、
 此処に移りて三日ばかりは涙を流し乍ら此事のみ思ひ廻ら
 し申候。此頃は巢鴨刑務所にて般若心経を読み生米初め
 ての靈感を得申候故、之を欧米人に伝へ度梵漢支文対照の
 上之を英訳し、英語にて中庸新註の如き体裁にて注釈を加
 へアメリカにて出版するつもりにて、原稿を書き居り申候。
 まことに到処青山にて自分ながら何故に是程のんびりし、
 何時いかなる処にても平気なるか不思議に被存候。頓首

〔昭和二十一年〕九月十八日

周明

御母上様

侍者

〔東京都世田谷区沼袋二五三 白川龍太郎^{*****}〕

* この手紙は無事届いている。内容はほぼ本文と同じ。

** マッカーサー夫人も娘のこともすべて事実ではない。

*** 石原莞爾、板垣征四郎のこと。

**** 大川の従弟。

***** 手紙の没収を恐れて変名としたもの。